

FRONTIER

予測できない未来を切り拓くためには、「既存の方法にとらわれず」、自ら適した方法をその都度選択して学び続けることが必要です。ちばっ子の学びに「ICT」という新しい選択肢を増やしましょう。



特別支援教育でICTを活用するために

Step 1

特別支援教育におけるICT活用の視点

視点1

教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするために、ICTを活用する視点

障害の有無や学校種を超えた共通の視点です！
各教科等の授業において、実施します。

視点2

障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するために、ICTを活用する視点

自立活動の視点であり、特別な支援が必要な児童生徒に特化した視点です！
個々の実態等に応じて実施します。



Step 2

特別支援教育におけるICT活用の必要性

障害に伴う学びにくさは**多様かつ個人差が大きく**、障害のない児童生徒以上に「**個別最適化した学び**」≒「**特別な支援**」が必要

身体の障害による学習上の困難

視覚障害（見えない・見えにくい）
聴覚障害（聞こえない・聞こえにくい）
肢体不自由（動けない・動きにくい）
病弱（病気による様々な制約）

※障害の特性に応じたICT機器や補助具の活用が必要

知的障害や発達障害による学びにくさやコミュニケーションの困難

知的障害者（理解や意思疎通が困難）
発達障害（様々な学びにくさ）

自閉症・情緒障害
言語障害
注意欠陥多動性障害
学習障害

※理解や意思表示を支援するためにICT機器の活用が有効

多くの子ども達が学びにくさを感じています。
ICTを効果的に活用することがポイントです。



＜特別支援教育の主なICT活用＞

- ・視覚障害（文字の拡大や白黒反転、読み上げ機能による音声化等）
- ・聴覚障害（大型ディスプレイや文字変換ソフトによる視覚化等）
- ・肢体不自由（視線入力装置や入出力支援装置による意思の表出等）
- ・病弱（自宅や病院等と学校をつなぐ遠隔教育）
- ・知的障害（コミュニケーションの代替や学習アプリの活用等）



Step 3

特別支援教育における実践

- * 特別支援教育における実践事例はあまり多くないというのが現状です。「StuDX Style」の特設ページにおいても、12月の段階で特別支援教育の事例は公開されていません。
- * 今回は千葉県総合教育センターの教育コンテンツ・データベースである「Wakaba」に掲載されている事例を紹介させていただきます。
- * なお、今回は紙面のスペースなどの事情からその概要について掲載をします。詳細等をご覧になりたい方は、以下の「Wakaba」のURLから検索するか、それぞれの実践について貼り付けられているURLから直接ご覧ください。
- * 「Wakaba」のURL：<https://ap.ice.or.jp/wakaba2013/index.php>

「10までの数・わくわくプログラム」を活用した数の指導の在り方

学年：小1～小6 対象：小学部 知的障害教育

内容：「10までの数・わくわくプログラム」を作成し、タブレットを活用することで、児童が主体的に取り組み、数の概念の理解を促すことができます。学習内容表や振り返りシートを活用し、授業改善を行うことで、個々の課題がより焦点化され、「主体的・対話的で深い学び」につながる数の指導の在り方を明らかにすることができます。

URL：<https://ap.ice.or.jp/wakaba2013/docs/2020/w20-0156/w20-0156.pdf>

文化祭のHPを作成しよう～自分たちの『○○サービス会社』～

学年：中1～中3 対象：中学部 生活単元学習 肢体不自由教育

内容：本単元は、文化祭の様子の記事を作成し、本校ホームページに掲載しようというものです。生徒の希望を基に、「写真レイアウト班」と「記事・取材班」に分かれて取り組む。PCやタブレット端末を使用し、取材を基に掲載する内容や感想を記事にしたり、掲載する写真を選んだりしています。

URL：<https://ap.ice.or.jp/wakaba2013/docs/2019/w19-0177/w19-0177.pdf>

病弱者である生徒に対するICTを活用した遠隔教育について

学年：中2 対象：中学部 病弱・身体虚弱教育

内容：病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校にて、退院後に治療をしながら復学を目指していく生徒の教育的ニーズを項目化し、合理的配慮の観点ごとに分類しています。分類をもとに事例生徒を対象に、通常授業と遠隔教育の併用による授業支援の実践を行った結果、事例において有効な支援方法であることが確認されました。

URL：<https://ap.ice.or.jp/wakaba2013/docs/2019/w19-0303/w19-0303.pdf>

この他にも特別支援教育におけるヒントとなる取組が多数掲載されていますので、ぜひチェックしてみてください！



合言葉は「 I (今までの学びに) C (ちょっとずつ) T (取り入れる) 」